

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	関西外国語大学短期大学部
設置者名	学校法人 関西外国語大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	英米語学科	夜・通信			20	20	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにて公表 http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/college_faculty_list.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 該当なし
(困難である理由) 該当なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	関西外国語大学短期大学部
設置者名	学校法人 関西外国語大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

「事業報告書」に役員名簿を記載。「事業報告書」は大学ホームページに掲載。
http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/info.disclosure.financial.h30_05.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	国立大学名誉教授	2018/10/26 ～ 2023/10/25	理事会の適正運営
非常勤	私立大学専務理事	2018/10/26 ～ 2023/10/25	理事会の適正運営
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	関西外国語大学短期大学部
設置者名	学校法人 関西外国語大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 【授業計画書(シラバス)の作成過程】 すべての授業科目において、講義概要、実務経験のある教員等による授業科目についてはその旨、到達目標、受講に際しての注意事項、評価基準、教科書、授業計画(各回の内容)、授業外学修を記載した授業計画書(シラバス)を作成しています。作成にあたり、各学部・学科等の学位授与方針との整合性や厳格かつ適正な成績評価を設定するために、授業計画書(シラバス)作成の手引きを教務委員会で策定し、毎年全教員へ配付しています。各教員が作成した授業計画は、教務委員会等の第三者が内容確認を行い、必要に応じて各教員への指導を行うなど、教育内容・方法の質が維持できるよう努めています。 【授業計画書(シラバス)の作成・公表時期】 授業計画書(シラバス)は、次年度の履修登録時(3月下旬)にWebで公表し、授業選択の際にすべての開講科目が確認できるようにしています。Webによる授業計画の公表は、2004年度より行っており、学生が過去に履修した授業の内容の確認や卒業後の進学において単位認定等で活用できるよう、過年度の授業計画書(シラバス)もすべて公表しています。	
授業計画書の公表方法	ホームページにて公表 https://rapport2.kansai-gaidai.ac.jp/syllabus/GUSW1000Login.do
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価は、履修規程において学期末試験、中間テスト等の試験、レポート、授業への参加度等を総合して評価することが明記されています。成績評価基準は最終成績に占める各項目の割合の合計が必ず100%になっています。第三者による授業計画の内容確認の際、適正に評価基準が設定されていない授業については、担当教員へ連絡して修正を行っています。 単位授与は、各教員から報告される点数(素点)が60点以上を合格として教務委員会が単位認定を行います。学生への通知は、教員より報告された点数(素点)を通知し、学修成果を厳格かつ適正に評価する運用に努めています。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【GPA等の客観的な指標の具体的な内容】

学生が学修の成果を自ら検証するための指標として、GPAを導入しています。GPAを算出するためのGrade Pointは主として海外で導入されている12段階の基準を導入し、成績の客観性を確保するとともに国際通用性を高めています。GPAは、当該学期に履修した科目のみを算入する「学期GPA」と、入学後に履修したすべての科目を算入する「累積GPA」の2種類を算出し、成績発表時に学生へ通知しています。具体的な算出方法は次のとおりです。

1. 履修科目の成績点数に応じて、相応するGrade Pointを次の表のとおり付与します。

成績点数	Grade Point
100～97	4.0
96～93	
92～90	3.7
89～87	3.3
86～83	3.0
82～80	2.7
79～77	2.3
76～73	2.0
72～70	1.7
69～67	1.3
66～63	1.0
62～60	0.7
59～0	0.0

2. Grade Point Average (GPA) は次のとおり算出します。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{GPA 対象科目の Grade Point} \times \text{単位数}) \text{ の総和}}{\text{GPA 対象科目の単位数の総和}}$$

【客観的な指標の算出方法の公表方法】

GPAの算出方法は、履修規程に明記し、ホームページを通じて公開しています。また、GPAの分布について、学部学科等の学年別に「学期GPA」と「累積GPA」の分布表をホームページで公開しています。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

ホームページにて公表
http://www.kansaiaidai.ac.jp/common/pdf/info_disclosure_publication_score.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ○学位授与の方針 (DP) 本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけた者に、「短期大学士(英語学)」の学位を授与します。 1. 実用的な英語力を身につけ、意思疎通を図ることができるようになる。 2. 論理的思考力、考え抜く力、チームで働く力などの人間力、ならびに幅広い教養を身につけ、グローバル社会で活躍できるようになる。 ○学修成果の評価について 学修成果の評価は、単位修得の確認、ルーブリック等により行います。 1. 修得科目、留学等の体験、およびクラス・アドバイザーによる面談記録など2年間の学修記録を活用し、学修成果の到達度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。 2. 本学で開発する「K.G.C.ルーブリック」(関西外国語大学短期大学部ルーブリック)により、学修過程とその成果についての可視化を行います。 3. 1年次にはTOEFLの受験を義務づけ、1年次の英語の学修成果を補完的に検証します。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	ホームページにて公表 http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/info_disclosure_publication_degree02.pdf

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	関西外国語大学短期大学部
設置者名	学校法人 関西外国語大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/info.disclosure.financial.h30_03.pdf
収支計算書又は損益計算書	http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/info.disclosure.financial.h30_01.pdf
財産目録	http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/info.disclosure.financial.h30_04.pdf
事業報告書	http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/info.disclosure.financial.h30_05.pdf
監事による監査報告(書)	http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/info.disclosure.financial.h30_06.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		
中長期計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページにて公表 http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/info.disclosure.assessment.college2017.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: ホームページにて公表 http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/info.disclosure.assessment.07.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 英米語学科
教育研究上の目的（公表方法：公表方法：ホームページにて公表 http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/academics.college.vision.3policy_college.pdf） （概要） 英語を中心とした言語運用能力の向上を図るとともに、日本と世界のなかで交流するときに求められる人間力と教養を高め、実践的な職業人または国内外の学士課程教育でより高度な専門性や教養を考究できる人材の育成を目的とします。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページにて公表 http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/academics.college.vision.3policy_college.pdf） （概要） 本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけた者に、「短期大学士（英語学）」の学位を授与します。 1. 実用的な英語力を身につけ、意思疎通を図ることができるようになる。 2. 論理的思考力、考え抜く力、チームで働く力などの人間力、ならびに幅広い教養を身につけ、グローバル社会で活躍できるようになる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページにて公表 http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/academics.college.vision.3policy_college.pdf） （概要） 本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技能などを修得させるために、専門教育科目、共通教育科目を体系的に編成し、授業を開講します。 ・コミュニケーション・ツールとしての実用的な英語力の養成をめざします。 ・英語力育成の重点化とともに、社会活動に適應できる「人間力」の養成をめざします。 ・学生一人ひとりのキャリア目標実現のため、職業人養成ならびに学士課程教育につながる体系的で柔軟な教育課程をめざします。 ・専門教育科目において、英語学・文学等に関する科目とともに文化・歴史・社会等に関する科目をここに位置づけ、これらの科目について一定程度の深い専門性を加えた内容を学習することによって、いわゆる「外国学」を広く修得することとし、共通教育科目を含めた教育課程全体で「幅広い教養と豊かな人格形成」をめざします。 1. 教育内容について (1) 1 年次を英語力の集中育成の段階と位置づけ、「College English Grammar」「Integrated English」等により、実用的な英語力の基礎の修得をめざします。 (2) 2 年次においては、Content-based approach(内容重視の外国語教育法)を用いて、社会科学や時事問題等を英語で学び、知識はもとより自分なりの意見を論理的に述べる発信力を育成します。 (3) 「K.G.C. ベーシックス」、「国際コミュニケーション科目群」「サービス・ホスピタリティ科目群」により、卒業後の一人ひとりに合ったキャリア形成を図るための必要な知識や論理思考力、考え抜く力、チームで働く力などの人間力を身につけるとともに、健全な勤労観や職業観を養います。 2. 教育方法について (1) 主体的に学ぶ力を高めるため、ディスカッション、プレゼンテーション、グループワー

クなどの教育方法を活用したアクティブ・ラーニング型授業を実施します。
(2)産業界等と連携した Project-based learning (プロジェクト型学習授業)の授業等を通して、キャリア意識の形成を図ります。
(3)クラス担任制により、2年間の学びを通して順次的・発展的に学修が行えるように学修支援ならびに指導を行います。
(4)本学独自の多彩なプログラムによる海外提携校への留学を推奨し、留学先大学での学修を通して、知識はもとより国際感覚などを身につけます。

3. 学修成果の評価について

学修成果の評価は、単位修得の確認、ルーブリック等により行います。

(1)修得科目、留学等の体験、およびクラス・アドバイザーによる面談記録など2年間の学修記録を活用し、学修成果の到達度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。
(2)本学で開発する「K.G.C.ルーブリック」(関西外国語大学短期大学部ルーブリック)により、学修過程とその成果についての可視化を行います。
(3)1年次にはTOEFLの受験を義務づけ、1年次の英語の学修成果を補完的に検証します。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:ホームページにて公表)

http://www.kansaiaidai.ac.jp/common/pdf/academics.college.vision.3policy_college.pdf

(概要)

本学科の教育上の目的として定める人材を育成するため、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、「求める人材像」を次のとおり定め、高等学校での学習を通しての基礎的な知識として、英語力を中心とする基礎学力などをもとに選抜を行い、入学者を受け入れます。

1. 求める人材像について

高等学校までの履修内容を通して、論理的に自分の意見を発信でき、とりわけ「英語」の学習において、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の基礎的な内容を身につけた上で、

(1)実用的な英語力を向上させるとともに、幅広い教養を身につけ、国際社会の舞台で活躍するキャリア形成をめざす強い意志を持つ人
(2)英語力の向上、人文科学、社会科学における専門性に関する基礎学力などを身につけ、学士教育課程への編入学をめざす強い意志を持つ人

2. 評価方法について

上記のような学生を選抜するため、形態ごとに以下のような試験を行い、本学で学修するための基盤となる学力などについて評価します。

(1)一般入試

ア. 一般入試

個別学力検査(外国語、国語)により評価します。

イ. センター試験利用入試

大学入試センター試験の得点により評価します。

(2)特別入試

ア. 公募制推薦入試においては、基礎学力検査として英語を課し、調査書等、学校長推薦書を総合して評価します。

イ. 社会人入試においては、書類選考(志願理由書)、筆記試験、面接を総合して評価します。

ウ. 帰国生徒入試においては、筆記試験および面接を総合して評価します。

エ. 指定校入試においては、書類選考(調査書等、学校長推薦書)、ならびに面接を総合して評価します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページにて公表

<http://www.kansai-gaidai.ac.jp/info/disclosure/publication/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・ 副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1 人	－					1 人
英米語学科	－	17 人	18 人	9 人	3 人	0 人	47 人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
1 人	95 人	96 人

各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法：ホームページにて公表 https://rapport2.kansai-gaidai.ac.jp/syllabus/GUSW3000Login.do
------------------------------	--

c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

大学全体の教育活動の質的向上・発展を図ることを目的として、FD委員会を設置しており、主な活動は以下のとおりとなります。

(1)FD 授業公開の実施(年間 2 回)

春・秋学期に各２か月間の授業公開期間を設け、全学部（短期大学含む）全授業を対象とした教員の相互授業参観を行っています。授業者は、参観者からの建設的なコメント（フィードバック）を自分の授業に反映させ、同時に、参観者は、授業者の教授法を自らの授業の参考にしています。

(2)FD 教員研修会の開催(年間 1 回)

当該年度着任の教員を主な対象に、より魅力ある授業を目指し、授業経験豊富な教員の授業実践報告・議論を通じて、授業の質の向上を図っています。

(3)FD 授業評価の実施 (年間 2 回) ・分析 (年間 1 回)

春・秋学期ともに、全開講科目の履修者を対象としてFD授業評価を実施しています。FD授業評価結果は、各学期終了後に担当教員本人へフィードバックしています。

(4)FD 授業評価・分析に関する教員の所見回収、公表（年間 1 回）

各教員は上記の授業評価結果を踏まえ、年度末に自己分析を行っています。次年度からの授業運営に生かすことで、授業の質の向上を図っています。FD 授業評価結果および自己分析結果は、学修支援システム上で学生に公開しています。

(5)FD講演会の開催(年間1回)

学外の専門家や実務家を招き、外部から見た本学に求められる教育研究活動等、FDの形骸化を防ぎ、推進に寄与するテーマを設定、講演・質疑応答を通じて授業改善を図っています。

(6)FD カフェの開催(不定期)

学内の教員が、教育・授業、学問・研究、あるいは人生観など自由に話し、参加者と懇談しています。学生も参加可能で、教員と学生とが、専門的な事項について活発かつ自由に議論し、教員・学生協働で授業改善を図っています。

(7)FD 授業実践研究フォーラムの開催(年間 1 回)

全学的に発表者を公募し、応募教員一人当たり 30 分の持ち時間で教育実践を中心とした高等教育に関するテーマについて学会形式で発表を行うもので、教員同士の知見・経験を共有し、教育力の向上をめざします。

(8) 機関紙『FD Newsletter』の発行(年間2回)

FD 委員会の活動方針・予定、教員の参加状況・コメント、各プログラムの実施報告等を掲載した機関紙を発行し、紙面は日英両語で併記され、約 180 人の外国人教員とも情報の共有を図っています。

(9)機関誌『高等教育研究論集』の刊行(年間1回)

本学教員の教育実践に係る論文等の投稿を募集し、FD 委員会が査読を行い掲載の可否を判断します。併せて、FD 委員会が企画・実施した FD 活動記録も含めて編纂し、全教職員に配付しています。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
英米語学科	800 人	875 人	109.3%	1,600 人	1,870 人	116%	0 人	0 人
合計	800 人	875 人	109.3%	1,600 人	1,870 人	116%	0 人	0 人
(備考) b/a：小数第2位以下切り捨て								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
英米語学科	828 人 (100%)	385 人 (46.5%)	242 人 (29.2%)	201 人 (24.3%)
合計	828 人 (100%)	385 人 (46.5%)	242 人 (29.2%)	201 人 (24.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
関西外国語大学、ジェットスター・ジャパン、東洋紡、ワコール、京セラ、パナソニック、日本通運、近鉄エクスプレス、資生堂ジャパン、ユニクロ、紀陽銀行、第一生命保険、ウェスティンホテル大阪、近鉄・都ホテルズ、プリンスホテル、ロイヤルホテル、日本旅行、イーオン 等				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
英米語学科	968 人 (100%)	786 人 (81.2%)	80 人 (8.3%)	92 人 (9.5%)	10 人 (1.0%)
合計	968 人 (100%)	786 人 (81.2%)	80 人 (8.3%)	92 人 (9.5%)	10 人 (1.0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

【授業計画書（シラバス）の作成過程】

すべての授業科目において、講義概要、実務経験のある教員等による授業科目についてはその旨、到達目標、受講に際しての注意事項、評価基準、教科書、授業計画（各回の内容）、授業外学修を記載した授業計画書（シラバス）を作成しています。作成にあたり、各学部・学科等の学位授与方針との整合性や厳格かつ適正な成績評価を設定するために、授業計画書（シラバス）作成の手引きを教務委員会で策定し、毎年全教員へ配付しています。各教員が作成した授業計画は、教務委員会等の第三者が内容確認を行い、必要に応じて各教員への指導を行うなど、教育内容・方法の質が維持できるよう努めています。

【授業計画書（シラバス）の作成・公表時期】

授業計画は、次年度の履修登録時（3月下旬）に Web で公表し、授業選択の際にすべての開講科目が確認できるようにしています。Web による授業計画書（シラバス）の公表は、2004 年度より行っており、学生が過去に履修した授業の内容の確認や卒業後の進学において単位認定等で活用できるよう、過年度の授業計画書（シラバス）もすべて公表しています。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

○学位授与の方針（DP）

本学科の人材養成目的を達成するため、次に掲げる知識・技能などを身につけた者に、「短期大学士(英語学)」の学位を授与します。

1. 実用的な英語力を身につけ、意思疎通を図ることができるようになる。
2. 論理的思考力、考え抜く力、チームで働く力などの人間力、ならびに幅広い教養を身につけ、グローバル社会で活躍できるようになる。

○学修成果の評価について

学修成果の評価は、単位修得の確認、ルーブリック等により行います。

1. 修得科目、留学等の体験、およびクラス・アドバイザーによる面談記録など 2 年間の学修記録を活用し、学修成果の到達度をディプロマ・ポリシーに照らし総合的に評価します。
2. 本学で開発する「K.G.C. ルーブリック」（関西外国語大学短期大学部ルーブリック）により、学修過程とその成果についての可視化を行います。
3. 1 年次には TOEFL の受験を義務づけ、1 年次の英語の学修成果を補完的に検証します。

学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	英米語学科	65 単位	㊦・無	24 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法：ホームページにて公表 http://www.kansaigaidai.ac.jp/common/pdf/college_objective_indicator.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：ホームページにて公表 https://rapport2.kansaigaidai.ac.jp/portal/top.do 注：アカウントを持つ学生のみ閲覧可		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページにて公表 http://www.kansaigaidai.ac.jp/info/campus/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	英米語 学科	770,000 円	250,000 円	300,000 円	その他 300,000 円は教育充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生の修学に係る支援の取組として、学生の主体的な学びを支援するため、ラーニングコモンズを設けています。ラーニングコモンズは、約 300 席があり、パソコン 51 台（ノート PC30 台とデスクトップ PC を 21 台）を用意しています。グループでのディスカッションや、プレゼンテーション資料の作成・練習など、学生はそれぞれの学習目的に合わせて利用できるよう支援を行っています。 授業における授業外学修支援として、e ラーニング型の学習管理システムの「Blackboard」を導入し、教材のダウンロードや課題・レポートの提出等がオンラインで行え、地理的・時間的制約を受けずに取り組めるような支援を行っています。また、学生自らが語学の習熟度を主体的かつ客観的に測るため、学内において、TOEFL (PBT) を年間 10 回、TOEIC を年間 7 回、スペイン語検定試験・DELE を年間各 2 回、HSK (中国漢語水平考試) を年間 3 回、実施しています。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 必修科目として開講している「K. G. C. ベーシックス」を中心に学生の進路選択に係る支援を展開しています。 「K. G. C. ベーシックス」では、卒業後の適切なキャリア形成を図るために必要な知識を獲得し、自らの進路を実現する力を養うことを目的として授業を展開しています。短大生の進路は、4 年制大学への編入学を希望する学生と就職を希望する学生の二つに分かれますが、「K. G. C. ベーシックス」はクラス担任制による授業ですので、学生の進路希望に応じた細かな指導を行うことができます。 編入学については、本学および他大学指定校への推薦制度があり、「社会学特別演習」や「人文科学特別演習」等の正課授業による基礎力向上対策や、夏季集中講座による語学力対策を行い、編入学を実現させる支援を行っています。 就職希望者に対しては、1 年次の秋より開講される総合科目としての「キャリアプランニン

グ」によって具体的な就職支援を行うとともに、様々な業界や産業分野から招いたゲストスピーカーによって社会の仕組みや企業の役割について学ぶことのできる「キャリア形成」や、PBL（課題解決型授業）等のキャリア関連科目を選択することができます。

また、これらの正課授業と並行して、10～20人程度の中規模人数で開催している各種セミナー類や、専門資格を持ったキャリアカウンセラーによる個別面談等、キャリアセンターが用意している各種支援策についても、個々の学生のニーズに応じてサポートを受けることができる仕組みを整えています。

他にも国内2大航空会社が参加する「エアラインフェア」や、外資系ホテルが参加する「ホテルフェア」等の関西外大ならではのキャリア支援プログラムや、業界を代表する企業による「業界研究会」（19年：88社参加）や、関西外大生の採用に積極的な企業が参加する「学内企業研究セミナー」（19年：443社参加）等、様々なかたちで学生の進路選択の支援に取り組んでいます。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

学生の心身の健康等学生生活に関する相談・対応として、専任教員による「クラス担任」制度があります。心的な悩み等には専門的なカウンセリング部門として、中宮キャンパス・御殿山キャンパス・グローバルタウン両キャンパスに「学生相談室」を常設しています。

体育会系クラブには「部長」、文化系クラブには「チューター」を大学教職員が担当しており、「部長」・「チューター」らが課外活動における課題、悩み解決に取り組んでいます。

学生生活全般の安全、衛生を総括して管理する「学生部委員会」が専任教員によって構成・組織されています。事務局では「学生部」が「学生部委員会」や「学生相談室」等と連携し、学生生活の支援に取り組んでいます。

身体に障がいがある学生には、点字ブロック、カットテーブル、スロープの設置、状況・本人の希望に応じて、昼食や着替え、休憩できる場所の提供、電動車いすの一時預かり等配慮しています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページにて公表

<https://rapport2.kansai-gaidai.ac.jp/syllabus/GUSW3000Login.do>